

# 深谷知広が地元Vに一直線

伊東競輪場開設72周年記念「椿賞争奪戦」は、12月22日～25日の日程で開催される。今シリーズは地元勢が充実しており、深谷知広、渡邊雄太、大石剣士とそろっている。吉田拓矢、宿口陽一のSS班関東コンビはいるが、深谷が主役を演じるか。今年のG3開催もいよいよオース。掉尾を飾るのは果たして誰なのか？ また、最終日第9レースに於いて、レインボーカップ・チャレンジファイナルが一発勝負で争われる。こちらも注目だ。

パワーあふれる自力攻撃で別線をねじ伏せている深谷知広。今年は8月小田原記念を含み5Vを達成している。最近の動きも力強く、調子も良好だ。競輪祭の一次予選1では、逃



深谷知広

げた寺崎浩の4番手確保から豪快に仕掛けると、マークしていた諸橋愛を置き去りにし、寺崎をあっさり飲み込んだ。上がりタイムは10秒9を叩きだして、スピードはSS班の自力型に見劣りしない。いつも通りの豪快な仕掛けで主導権を握れば、押し切る公算が大きい。65周年に続き、この大会2V目をゲットするとみた。渡邊雄太も今年はすべてF1戦ながら5Vを飾っている。競輪祭の一次予選1ではバック先制のまくりを決めて



サンタもうらやむドキドキの4日間!

## 開設72周年記念 椿賞争奪戦 GII

12/22 THU 23 FRI 24 SAT 25 SUN

12/25 雷レインボーカップチャレンジファイナル

伊東温泉競輪 検索 https://www.itokeirin.com/ 伊東競輪 37# https://keirin.jp Dokanto



吉田拓矢

2着。今年は調子の波が少なく、コンスタントに力を発揮できていた印象がある。深谷との連係が叶うようならこれまで通り前を任せるか。地脚タイプなので、踏み出しを凌げれば68周年以来となるV獲りも可能だろう。大石剣士は当所がホームバンク。最近では先行とまくりを使い分けて安定した成績を残している。そろそろG3開催でも結果を出したい。



宿口陽一

止まったものの、ビッグ初参戦の共同通信社杯では一次予選で2着。吉田、石原颯、菊池岳らを圧倒している。機動力はトップクラスで通用することを示した。タイミングよく仕掛けて先手を奪えば好勝負に持ち込める。タッグを組む小松崎大地も今年は高いレベルで成績をまとめている。高松宮記念杯、オールスター、寛仁親王牌とG1で3回決勝進出。12月大宮では3V目を達成した。中野が先制し、無風で番手を回れば単も望める。

嘉永泰斗、中本匠栄の熊本勢に山田英明とそろった九州勢も侮れない。嘉永は主武器のまくりは破壊力抜群で、直近4カ月の勝率は4割超。練習仲間の中本に前を任せれば強気に攻める。中本は11月和歌山で3連勝すると、競輪祭は予選を③①③着で準決に進出して伸びがいい。チャンスが巡ってくればものできる状態だ。ダークホースは野原雅也。今年はなかなか調子が上がってこなかったが、ここに来てスピードに切れが出た感がある。仕掛けがはまれば一発怖い。

### 主力メンバー

※2022年12月8日現在

氏名	登録地	期別	競走得点	直近12場所成績
嘉永泰斗	熊本	97期	110.88	113期 174cm80
中本匠栄	熊本	97期	115.10	113期 174cm80
野原雅也	熊本	97期	96.10	113期 174cm80
渡邊雄太	熊本	97期	106.88	113期 174cm80
深谷知広	熊本	97期	116.94	113期 174cm80
吉田拓矢	熊本	97期	116.21	113期 174cm80
宿口陽一	熊本	97期	115.10	113期 174cm80
小松崎大地	熊本	97期	110.88	113期 174cm80
諸橋愛	熊本	97期	116.14	113期 174cm80

### 椿賞争奪戦 出場予定選手

※2022年12月8日現在

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
SS	宿口陽一	埼玉	91期	110.88	S2	水書義弘	千葉	75期	95.57
SS	吉田拓矢	茨城	107期	115.10	S2	荻野哲	神奈川	75期	93.64
S1	稲村成浩	群馬	69期	96.10	S2	北野武史	石川	78期	101.43
S1	伏見俊昭	福島	75期	106.88	S2	牧剛央	大分	80期	99.86
S1	諸橋愛	新潟	79期	116.94	S2	土屋裕二	静岡	81期	102.62
S1	三宅達也	岡山	79期	105.40	S2	青井賢治	徳島	81期	96.19
S1	佐々木則幸	高知	79期	103.65	S2	佐藤慎太郎	福島	83期	102.14
S1	吉田敏洋	愛知	85期	105.52	S2	田村真広	群馬	83期	95.39
S1	高原仁志	徳島	85期	107.45	S2	大木雅也	静岡	83期	95.92
S1	菅原晃	大分	85期	99.35	S2	石毛克幸	千葉	84期	102.69
S1	坂本健太郎	福岡	86期	105.81	S2	勝源卓也	神奈川	84期	97.50
S1	山賀雅仁	千葉	87期	105.26	S2	高比良豪	福岡	84期	98.38
S1	桐山敬太郎	神奈川	88期	104.15	S2	矢口啓一郎	群馬	86期	98.55
S1	田中誠	福岡	89期	104.22	S2	武井大介	千葉	86期	101.33
S1	芦澤大輔	茨城	90期	105.65	S2	三ツ石康洋	徳島	86期	98.00
S1	村田雅一	兵庫	90期	108.45	S2	近藤俊明	神奈川	87期	99.72
S1	阿竹智史	福島	90期	109.87	S2	大屋健司	広島	87期	98.22
S1	須永優太	福島	94期	104.42	S2	野野通孝	茨城	88期	102.21
S1	根田空史	千葉	94期	108.14	S2	松村友和	大阪	88期	103.96
S1	武藤篤弘	埼玉	95期	103.29	S2	越智展孝	愛媛	88期	92.59
S1	小原太樹	神奈川	95期	113.00	S2	吉田裕全	埼玉	90期	96.59
S1	河端朋之	岡山	95期	104.62	S2	古屋琢晶	山梨	90期	99.30
S1	深谷知広	静岡	96期	113.50	S2	高橋和也	愛知	91期	99.40
S1	根本哲史	秋田	97期	105.61	S2	小堺浩二	石川	91期	101.04
S1	中本匠栄	熊本	97期	112.00	S2	大西祐	愛媛	91期	96.65
S1	新山将史	青森	98期	106.47	S2	野本翔太	高知	91期	93.62
S1	川口公太郎	岐阜	98期	104.71	S2	桑原亮	福岡	91期	98.21
S1	小松崎大地	福岡	99期	112.62	S2	小林弘和	佐賀	91期	101.14
S1	神田紘輔	大阪	100期	109.08	S2	森川大輔	岐阜	92期	103.00
S1	山本伸一	奈良	101期	105.00	S2	伊藤信	大阪	92期	105.19
S1	野原雅也	福井	103期	111.13	S2	関貴之	茨城	93期	97.65
S1	渡邊雄太	静岡	105期	110.00	S2	古川貴之	佐賀	93期	93.17
S1	大石剣士	静岡	109期	107.82	S2	渡辺正光	福島	95期	98.68
S1	藤澤鴻太郎	群馬	111期	98.11	S2	上原龍	長野	95期	99.40
S1	嘉永泰斗	熊本	113期	108.50	S2	重倉高史	富山	95期	94.00
S2	三住博昭	神奈川	61期	94.00	S2	佐藤博紀	岩手	96期	100.00
S2	島野浩司	愛知	62期	98.47	S2	中田雄喜	福島	97期	104.47
S2	布居寛幸	和歌山	72期	95.40	S2	平原啓多	埼玉	97期	99.10
S2	佐藤康紀	青森	73期	99.68	S2	小島歩	神奈川	97期	98.18
S2	成清貴之	千葉	73期	96.65	S2	志村龍己	山梨	98期	100.65

### 松本 貴治 (愛媛/111期)

今年は優参が少なく、なかなか波に乗れない印象だが、ダービーで2勝、寛仁親王牌、競輪祭ではそれぞれまくって1勝を挙げているように底力はある。上位戦でも仕掛けがツボにはまると怖い。



親王牌



### 嗟峨 昇喜郎 (青森/113期)

昨年は調子を落としていて7勝に終わったが、今年は15勝を挙げており、かなりスピードが甦ってきた。F1戦ではほとんど決勝に乗っている。久しぶりのG3開催でどこまでやれるか注目したい。



### 伊藤 慶太郎 (埼玉/107期)

落車負傷の影響で低空飛行が続いていたが、ここに来て機動力が復活してきた。11月富山G3では2①着で準決にコマを進めると、同月大宮の準決は逃げて2着に粘り、皿屋豊を不発に陥れた。

## レインボーカップチャレンジファイナル

# 爆発力満点の梅崎隆介

### 出場予定選手詳細 ※2022年12月9日現在

選手名	出身	期数	直近12場所成績	総合評価
梅崎隆介	長崎	32	54 (7)	55 (5)
一丸尚伍	大分	30	52 (8)	54 (7)
室井蓮太郎	徳島	21	51 (11)	51 (17)
富田武大	山口	25	53 (8)	53 (8)
菊谷信一	大阪	37	51 (11)	51 (17)
岸田剛	福井	23	53 (8)	53 (8)
小西晴己	三重	20	54 (9)	54 (9)
栗本尚宗	千葉	28	55 (5)	55 (5)

121期7人に、来期は1班上がる栗本尚宗、菊谷信一の2人という頂上決戦。121期勢は来期もチャレンジなのでモチベーションも高いし、全員が3着以内を目指す中、本命に期待するのは梅崎隆介だ。8連勝して迎えた11月武雄の決勝はゴール前の不運なアクシデントがあった2着と特班を逃す悔しい結果だったが、続く12月向日町は再び完全Vと引き続き気力、体力ともに充実。一丸尚伍、甲斐俊祐の大分勢とは別で単騎の戦いが予想されるものの、梅崎には全くハンデにならない。これまでも後ろが一瞬で離れる強烈なスピードで圧勝するレースを連発してきただけに、これもタイミングを逃がさない一撃でそろった強敵をねじ伏せて1着を奪うとみた。

一丸、甲斐の大分勢も期待が持てる。自転車中距離種目の第一人者から競輪選手へと転身を遂げた一丸は本格デビューして4V。甲



梅崎 隆介



一丸 尚伍

斐には優勝した5月松戸ルーキーシリーズ決勝で前を任せていて、これも番手戦か。小野俊之の弟子の甲斐が強い気持ちで風を切れれば、一丸が再び結果を出して応える。

小西晴己、岸田剛にも魅力を感じる。ともに2場所連続完全優勝中で特班している可能性があるが、出走なら本命にも推せる存在だ。小西は掛かってしまえば鋭く伸びてくるので、まずは流れに乗っていつかの勝負。ゴールデンキキャップ岸田は高いトップスピードが売りで逃げてしまっても強い。菊谷を連れてラインの競走ができるのも強み。

室井もゴールデンキャップの一人。父譲りのレースセンスも光るし、デビュー直後の落車負傷がなければ特班しておかしくなかった実力者だ。富も父は一流選手。惜しくも11月広島での特班は逃したので、ここに懸ける思いは強い。栗本は新人相手に闘志マックスで臨む。総力戦で経験値の差を示すか。



車券の購入は20歳になってから。競輪は適度に楽しみましょう。競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。